



晴天の心

立教 187年4月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 4月17日(水) 午前10時～
婦人会例会 4月9日(火) 午前10時～



世間では年度末という仕切りになる3月末。企業としては決算に向けての大売り出しがあちこちで行われています。4月から新しい生活が始まる人も多いことでしょう。新しい立場で仕事に付くことも多くなる季節です。初めてのことも多く関わってくるでしょうから、心が疲れることがある季節でもあります。

あるお医者さんの SNS の投稿でも心のカウンセリングが増える季節だと書かれていました。自分自身でしかわからないことなのかもしれません、しかし一人で抱え込むことをせずに、周りのひとにまずは何でもいいので話してみましょ。何気ない話から自分が抱え込んでいる問題解決のヒントが見いだせることがあります。また、思い切って新しい世界を体験することで気分が晴れやかになることがあります。

まずは、抱え込んでいることをちょっと横に置いて少し距離を置いて対応することで解決することもあると思います。目線を変える思考するパターンを変える、これには他人の意見が役立ちます。考え込みすぎないで一息ついて見ましょ。

そして、周りの人たちは疲れているな？煮詰まっていなかな？という事を少し気にかけて、そのサインを見逃さないようにしておくことも大切です。

春は陽気な季節ですが、躁鬱と言うことばは、陽気でテンションが上がっている時、つらく暗い気分鬱々とした時があると言うことですので、そのことを心に置いて心のバランスを上手に保てるように見守っていきましょう。

「どんな花も咲く」

春が近づいているというのに、今年は例年になく寒い日が続いています。

10日ほど前の早朝、教祖殿中庭の紅梅を見上げたときも、まだ小さなたくさんの蕾が寒風に耐えていました。霜が降りているせいか、枝先も白く凍てついています。真冬のような寒さが続く中で、色鮮やかな蕾をつける梅の木に、例年以上のいとおしさを感ずるのは、連日続く震災の報道に心を痛めているからでしょうか。

それでも、急ぐ足を止めて目を凝らすと、そこかしこに春の訪れを感じます。いつもより数が少なく、あまり採れなかった「ふきのとう」の酢みそあえは、小鉢の底に、ほんの少し盛られただけでしたが、あの独特の風味を十分に味わうことができました。家の前の土手には、小さなタンポポの花が一輪咲いています。

今日の
おやのことば

「どんな花も咲く」

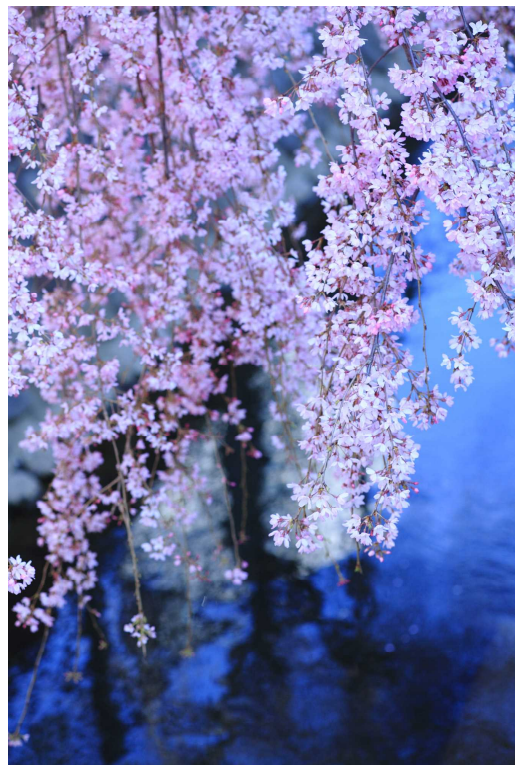
皆々の心精神の理によって、
どんな花も咲くと言うて置こう。



「皆々の心精神の理によって、どんな花も咲くと言うて置こう」

たとえ冬の寒さはどんなに厳しくても、春になれば、また花が咲きます。待つ時間が長かった分だけ、今年の春は、きっといつも以上に、花の美しさに心打たれることでしょう。妻が丹精している花畑には、今年はどんな花が咲くのでしょうか。

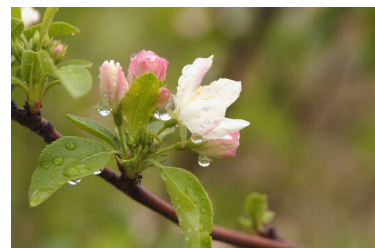
少し春めいた暖かさのなか、昨日訪れた教祖殿中庭の紅梅は、すでに満開の花を咲かせていました。春はもう、すぐそこまで来ています。(岡)



桜の樹の下で さだまさし

桜の樹の下に集まって みんなで最初からやり直そう
両手に余る悲しみを越えて
みんなで最初から始めよう ららららら ららららら
みんな働け

力があるなら力を出せ
知恵があるなら知恵を出せ
お金があるならお金を出せ
何もないヤツは歌え



4月18日は教祖の誕生日です。
どうぞ、晴れに日にご参拝ください。

教祖誕生祭

寛政10年(1798年)4月18日にお生まれになった、教祖のご誕生をお祝いして勤められます。

祭典 2024年4月18日(木)10:00 天理教教会本部
よろこびの大合唱

日時 2024年4月18日(木) 誕生祭祭典終了直後
場所 本部中庭 婦人会・青年会・少年会主催

※ 教祖100年祭までは、4月18日から26日までが慶祝期間と言うことで、各教会での祭典日が変更されていました。当教会も4月のみ17日となっているのはその名残です。

また、管内の学校はその期間はほぼ休みだったように思います。

思い出として、高校1年生の時は、当時は普通に行われていた私鉄のストライキの期間とも重なったので、知り合ったばかりの友人たちと京都まで出かけ(近鉄はストしなかった)インクラインの桜を楽しみ、地上を走っていた京阪電車の線路沿いの桜を見た思い出があります。今思えば自由なよい時代だったんですね。そして、慶祝期間のステージに中島みゆきさんが登場して歌を歌ったのですが、当時は全く知らなかった私は、寮の当番を代わってあげて寮にいたことを、ファンとなった今では後悔しています。

道の子みんなでお祝いしましょう

祭典終了直後 本部中庭

よろこびの大合唱

教祖誕生祭

4月18日

歌詞・音源 動画はこちら→

天理教婦人会・青年会・少年会

教祖伝逸話編

52. 琴を習いや

明治十年のこと。教祖が、当時八才の辻とめぎくに、「琴を習いや。」と、仰せになったが、父の忠作は、「我々の家は百姓であるし、そんな、琴なんか習わせても。」と言って、そのままにして、日を過ごしていた。

すると、忠作の右腕に、大きな腫物が出来た。それで、この身上から、「娘に琴の稽古をさせねばならぬ。」と気づき、決心して、郡山の町へ琴を買いに行った。

そうして、琴屋で、話しているうちに、その腫物が潰れて、痛みもすっきり治まった。それで、「いよいよこれは、神様の思わくやったのや。」と、心も勇んで、大きな琴を、今先まで痛んでいた手で肩にかついで、帰路についた、という。



53. この屋敷から

明治十年、飯降よしゑ十二才の時、ある日、指先が痛んで仕方がないので、教祖にお伺い上がったところ、「三味線を持て。」と、仰せになった。

それで、早速その心を定めたが、当時櫛本の高品には、三味線を教えてくれる所はない。「郡山へでも、習いに行きましようか。」と、お伺いすると、教祖は、「習いにやるのでもなければ、教えに来てもらうのでもないで。この屋敷から教え出すものばかりや。世界から教えてもらうものは、何もない。この屋敷から教え出すので、理があるのや。」と、仰せられ、御自身で手を取って、直き直きお教え下されたのが、おつとめの三味線である。

註) 飯降よしゑは、明治二十一年結婚して、永尾よしゑとなる。

54. 心で弾け

飯降よしゑは、明治十年十二才の時から三年間、教祖から直き直き三味線をお教え頂いたが、その間いろいろと心がけをお仕込み頂いた。

教祖は、「どうしても、道具は揃えにゃあかんで。」「稽古出来てなければ、道具の前に坐って、心で弾け。その心を受け取る。」「よっしゃんえ、三味線の糸、三、二と弾いてみ。一ツと鳴るやろが。そうして、稽古するのや。」と。

55. 胡弓々々

明治十年のこと。当時十五才の上田ナライトは、ある日、たまたま園原村の生家へかえっていたが、何かのはずみで、身体が何度も揺れ動いて止まらない。

父親や兄がいくら押えても、止まらず、一しょになって動くので、父親がナライトを連れて、教祖の御許へお伺いに行くと、「胡弓々々。」と、仰せになった。

それで「はい。」とお受けすると、身体の揺れるのが治まった。

こうして、胡弓をお教え頂くことになり、おつとめに出させて頂くようになった。

74. 神の理を立てる

明治13年秋の頃、教祖は、つとめをすることを、大層厳しくお急き込み下された。警察の見張り、干渉の激しい時であったから、人々が躊躇していると、

教祖は、「人間の義理を病んで神の道を潰すは、道であろうまい。人間の理を立ていでも、神の理を立てるは道であろう。さ、神の理を潰して人間の理を立てるか、人間の理を立てず神の理を立てるか。これ、二つ一つの返答をせよ。」と、刻限を以て、厳しくお急き込み下された。そこで、皆々相談の上、「心を定めておつとめをさしてもらおう。」ということになった。ところが、おつとめの手は、めいめ



いに稽古も出来ていたが、かぐらづとめの人衆は、未だ誰彼と言うて定まっていなかった。また、女鳴物は、三味線は飯降よしえ、胡弓は上田ナライト、琴は辻とめぎくの三人が、教祖からお定め頂いていたが、男鳴物の方は、未だ手合わせも稽古も出来ていないし、俄のことであるから、どうしたら宜しきやと、種々相談もしたが、人間の心で勝手に出来ないという上から、教祖にこの旨をお伺い申し上げた。すると、教祖は、「さあさあ、鳴物々々という。今のところは、一が、二になり、二が三になっても、神が許す。皆、勤める者の心の調子を神が受け取るね。これよう聞き分け。」と言う意味のお言葉を下されたので、皆、安心して勇んで勤めた。山沢為造は、一二下りのてをどりに出させて頂いた。場所は、つとめ場所の北の上段の間の、南に続く八畳の間であった。

59.まつり

明治十一年正月、山中こいそ（註、後の山田いゑ）は、二十八才で教祖の御許にお引き寄せ頂き、お側にお仕えすることになったが、教祖は二十六日の理について、

「まつりというのは、待つ理であるから、二十六日は、朝から他の用は、何もするのやないで。この日は、結構や、結構や、と、をや様の御恩を喜ばして頂いておればよいのやで。」と、お聞かせ下されていた。

こいそは、赤衣を縫う事と、教祖のお髪を上げる事とを、日課としていたが、赤衣は、教祖が、必ずみずからお裁ちになり、それをこいそにお渡し下さる事になっていた。

教祖の御許にお仕えして間もない明治十一年四月二十八日、陰暦三月二十六日の朝、お掃除もすませ、まだ時間も早かったので、こいそは、教祖に向かって、「教祖、朝早くから何もせずにいるのは余り勿体のう存じますから、赤衣を縫わして頂きとうございます。」とお願いした。すると教祖は、しばらくお考えなされてから、「さようかな。」と、仰せられ、すうすうと赤衣をお裁ちになって、こいそにお渡し下された。こいそは、御用が出来たので、喜んで、早速縫いにかかったが、一針二針縫うたかと思うと、俄かにあたりが真暗になって、白昼の事であるのに、黒白も分からぬ真の闇になってしまった。愕然としてこいそは、「教祖」と叫びながら、「勿体ないと思うたのは、かえって理に添わなかったのです。赤衣を縫わして頂くのは、明日の事にさして頂きます。」と、心に定めると、忽ち元の白昼に還って、何の異状もなくなった。

後で、この旨を教祖に申し上げますと、教祖は、「こいそさんが、朝から何もせずにいるのは、あまり勿体ない、と言いなはるから、裁ちましたが、やはり二十六日は、掃き掃除と拭き掃除だけすれば、おつとめの他は何もする事要らんのやで。してはならんのやで。」と、仰せ下さった。



全教一斉ひんきしんデー

4月29日(祝) 各支部会場にて

「全教一斉ひのきしんデー」は、日ごろのひのきしん活動の集大成として、全教のようぼく・信者が、それぞれの土地所で心をついにひのきしんをする日です。

この全教行事は昭和7年(1932年)に始まり、現在は毎年4月29日に実施されています。この日、各地の名所旧跡、公園や公共施設、海、山、川などで、報恩感謝の汗を流す教友の勇んだ姿が見られます。

夫婦・親子の絆が弱まり、家庭の崩壊が切実な問題となっている昨今、「ひのきしんデー」に家族そろって参加することは、お道ならではの家族団欒だんらんの姿を社会へ映していく機会にもなるでしょう。

なお、各支部の会場は教区支部情報ネットで検索できます。

どうぞお近くの会場にご参加ください。

教区支部情報ネット



教区支部情報ネット